



アンテナ・伝播研究専門委員会からのお知らせ

No.40 / 2009年11月

「アンテナ・伝播研究専門委員会からのお知らせ」第40号をお届けします。

今回は、2009年9月の韓国学会にAP研から出席した報告、2010年1月AP研オーガナイズドセッション、次回総合大会でのミリ波ワークショップ企画、ISAP2012の日本開催決定のお知らせです。

【1】 韓国学会への出席報告

伊藤委員長(千葉大)をはじめとするAP研代表団が9月24-25日に韓国亀尾市で開催された2009 Autumn Microwave & Radio Wave Conferenceに出席しました。伊藤委員長は、大会の招待講演で通ソとAP研の学会活動を簡単に紹介し、“Microwave Antennas for Medical Applications”の題目で講演を行いました。また、宇野教授(農工大)、広川准教授(東工大)と陳准教授(東北大)は、大会のKorea-Japan Joint Sessionで、それぞれの研究成果を発表しました。大会期間中、韓国のAP関係者と会合を開き、双方の学術交流の在り方について議論を行いました。

【2】2010年1月AP研オーガナイズドセッション

AP研では2009年9月より、今後の研究で注目されるテーマや異分野との研究テーマを議論するオーガナイズドセッションを開催しております(<http://www.ieice.org/cs/ap/jpn/>)。9月の「近傍電磁界の結合による無線電力伝送技術」、11月の「局間連携および分散アンテナに関する諸技術」に続き、2010年1月のAP研(山口大学、1月21日-22日)では、「電磁波の医療・生体応用技術」について、オーガナイズドセッション(オーガナイザ:齊藤一幸, 伊藤公一)を企画しました。

近年、医療分野では、電磁波技術を用いた診断・治療機器が数多く用いられています。しかしながら、それらの研究開発の成果が発表されることは少なく、通信・放送分野への応用に関する研究発表に比較して少数です。一方、人体近傍で用いられる携帯通信端末の急激な普及により、生体電磁環境に関連する研究は急速に進展しています。これら2つの研究分野は共通点が多く、アンテナ・電波伝搬技術における重要性は言うまでもありません。そこで本セッションでは、最新の電磁波の医療・生体応用技術に関連する発表を募集し、当該分野および関連分野が一層発展するための技術課題や展望などを議論することを目的とします。4, 5件程度の発表が予定されておりますので、奮ってご参加ください。

【3】総合大会でのシンポジウム「ミリ波システム実現のためのアンテナ・伝搬最新技術」ご案内

2010年3月に東北大で開催される総合大会において、AP研では「ミリ波システム実現のためのアンテナ・伝搬最新技術」のシンポジウムを企画しております。

近年、シリコン COMS 回路の動作周波数が高くなり、ミリ波システムの実現が現実味を帯びてきました。本シンポジウムでは、ミリ波帯におけるアンテナ・伝搬の発表にとどまらず、ミリ波集積回路との接続技術、ミリ波帯測定技術、微細加工技術、信号処理技術などの、システムを実現するために必要な関連技術に関しても広く募集し、現状の技術課題と今後の技術展望について総合的に議論したいと考えます。皆様の積極的な投稿をお願いいたします。

【4】ISAP 2012 の日本開催決定

2012 年の ISAP 開催地が名古屋に決まりました。また、開催期間は 2012 年 10 月 29 日ー11 月 2 日となっています。ISAP 2012 に関するお問い合わせは
General Chair of ISAP 2012: 伊藤公一(千葉大学 教授)
Email: ito.koichi@faculty.chiba-u.jp
までお願いします。

【5】AP 研副委員長の戯言

10 月の AP 研は静岡大学で開催されました。同大学は高柳記念未来技術創造館があり、日本のテレビ発祥の地としても知られています。時間がなく、残念ながら高柳記念館を見学することはできませんでしたが、研究会会場に文化功労者、テレビジョン学会名誉会員の高柳先生の自筆の書「和」が飾られており、記念写真を撮りました。桑原先生や静岡大学の学生の皆様には、研究会の進行や懇親会などで大変お世話になりました。10 月 8 日朝は台風 18 号が上陸し、静岡大学は休校、バスも 9 時まで運行停止の中、研究会の開催が危ぶまれましたが、欠講は 1 件だけで予定通り 9 時から開催することができました。これもひとえに AP 研究者の情熱の賜物と思います。渡辺先生のネットワークについての特別講演、塩川先生のアンテナの歴史の特別講演を含めて、10 月の AP 研究会は通常とは違う興味深い講演が多かったと思います。

先日の新聞に三菱重工が 40 年ぶりの国産旅客機である「MRJ」を 125 機受注した、エンジンを独自に開発するという記事が載っていました。「H2B」ロケットの打ち上げ成功と合わせ、日本の製造業の技術力の高さを示しています。1988 年のスーパー 301 条施行以来、公的機関の衛星は国際調達するようになり、これまで外国衛星の調達が続いていますが、民間衛星も含め、今後、国産衛星、ロケットが受注されることを祈っています。

2009 年 11 月 1 日から、家庭や企業が発電した電力の買い取り価格が 2 倍になります。昼間、家庭で発電した電気を事業活動に使い、夜は電力会社の電力を家庭で使うことは合理的と思います。太陽電池発電の効率や装置の低価格化が課題ですが、エネルギーの移行が進められる施策がとられています。地球温暖化対策技術で日本がリーダーシップをとることが期待されます。

他方、先日のテレビで製造業への就職を希望している高校卒業予定の生徒の就職先が決まらないという番組を放送していました。まじめに製造業で働こうという意志のある若者を雇用できない社会はおかしいのではないかと思います。技術者の地位をもっと向上させるべきと思います。

〈問い合わせ先〉

アンテナ・伝播研究専門委員会副委員長 正源和義(NHK)

E-mail : ap_ac-chair@mail.ieice.org

AP-NET : AP 研の最新情報を毎月メールにてお届けします！！ 登録は AP 研 HP にて

AP 研 HP : <http://www.ieice.org/cs/ap/jpn/>

